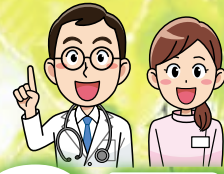




教えて！ 健康のコツ



小笠袋井薬剤師会 その63 (☎22-7120)

医薬品の保管方法

病院や薬局でもらったお薬は、普段どのように保管していますか。お薬を保管するには注意すべきポイントがあります。

高温を避ける

お薬は光や温度、湿度などによって効能が落ちる場合があります。錠剤、散剤、カプセル剤などの飲み薬は、保管方法に特に指示がない場合は、湿気・直射日光を避けて室温（一〜三〇度）で保管します。夏場のお薬の保管方法が心配な場合は薬剤師に相談してください。

一方、坐薬や一部の目薬、シロップ剤やインスリンなど、冷所保存の指示がある場合は冷蔵庫に保管します。お薬は凍ってしまうと性質が変わってしまう恐れがあるため、冷凍庫には入れないように注意してください。

多湿を避ける

次に湿度ですが、お薬は湿度が高

いと吸湿により変質してしまう場合があります。高温多湿になる梅雨時などは特に注意が必要です。お薬は蓋の閉まる缶などに保管し、できるだけ涼しい場所に置くようにしましょう。

直射日光を避ける

光についてですが、お薬は直射日光のような強い光に当たると分解しやすくなります。特に「遮光保存」と書かれている薬は室内の弱い光でも分解しやすいため、光の当たらない暗所に保管する必要があります。点眼薬で遮光袋がついているものは、遮光袋に入れてから保管するようにしてください。

その他の注意点

お薬を食品、殺虫剤、防虫剤などと一緒にしまっておくと、間違っていると飲んでも危険があります。それを防ぐため、救急箱やお薬置き場など、お薬だけを保管する場所を決め

ましょう。また、小児や乳幼児の手の届かないところに保管してください。食後に飲もうと思ったお薬を、目を離れた隙に間違えて口に入れてしまうことがあるため、油断は禁物です。

最後に、お薬には使用期限があります。いつももらったか不明な薬や、中途半端に残ってしまった外用薬、頓服薬（症状時のみに服用する・使用する薬）などは自己判断で服用・使用せずに、医師や薬剤師に相談することを勧めます。

